

人為的間違い

(入力するデータに誤りがあれば、コンピューターは間違っただけの結果を出す)

JJ1SXA/池

2019年6月、地上配備型迎撃システム「イージス・アショア」の配備に関し、防衛省が公表した「適地調査の報告書」に誤りがあり、これを指摘した「秋田魁新報」のスクープは、適地調査を含めた一連の報道で、取材班は新聞協会賞を受賞した。

だが、原因は本当に単純ミス、防衛省が公式に発表する内容は杜撰だったと批判されても当然だ、山の高さ(鉛直方向)の縮尺と、水平方向の縮尺が違っているのにそれをそのまま使っている、誤った結果が出るのは当然だ。

此のニュースに接した時、現役の頃のことを思い出したものだ、分母の違うn個のデータ値の平均を、単純にn個の合計値をnで除した結果は間違いであると指摘したが、理解してもらうのに相当時間がかかった、分母が違うからだという単純なことなのに。

また、車両の燃費の計算で、燃料タンクの残量から計算するのだが、コンピューターが計算するのだから100%正確だと主張があったので、あくまでも概略値だから参考にするだけで、正確だとしてない方が良くと言ったが、これも理解してもらうのに相当時間がかかった、タンク残量目盛りは「%」で示されていて、正確な量の数値では無い(容量は100リットルでは無い)、又、目盛りの読みは、人間の目視であり、且つ、少し多めの数字にする慣習があるからだが、このことも、中々理解してもらえず残念でした。

コンピューターは計算は間違わないが、入力するデータが間違っていれば、結果は間違っただけの値を示すということを理解せず、コンピューターは計算は間違わないからと、計算結果を信用するのみで、困ったものだったことを思い出す、事程左様に思い込みによる間違いは、至る所で起こる。

似たような事だが、コロナの感染者数の発表、検査受検者数(分母)の発表が無い、これで、感染者数の増減に一喜一憂するのはどうなのかな？

今年(2022年)の1月16日に実施された大学入学共通テストの「数学1・A」には、キャンパスから山頂を見上げた仰角を問う問題があった。

やはり山の高さの方(鉛直方向)の縮尺は2万5千分の1なのに対して水平方向の縮尺は10万分の1である、当然、実際の角度は図面上のそれとは大きく違ってくる。

これは、例のイージス調査ミスと似てると、ツイッターで話題になったが、出題者は、承知の上で、縮尺の違いに気付き、修正した値で答を出すことを期待したのだろうかと思う、問題中…「本当に16°なの？ 図1の鉛直方向の縮尺と水平方向の縮尺は等しいのか？」…の記述がある。

大学入学共通テストの問題は、分りもしないのに、数学の問題だけは興味を持って覗いている、もう一寸昔は、わからないが、わからないなりに興味があったが、現在は余にも理解できない問題が多く、見るのが嫌になってきている、ボケ防止には、何事にも興味を持ち続けることが良いようだが、一つ、また一つと興味を持つことが無くなってきている、困ったものだが、歳(よわい)86、もう一寸頑張るぞ！ hi (2022年1月記)